第7号　2010年1月

北海道大学 Hokkaido University Archaeological Research Center News Letter

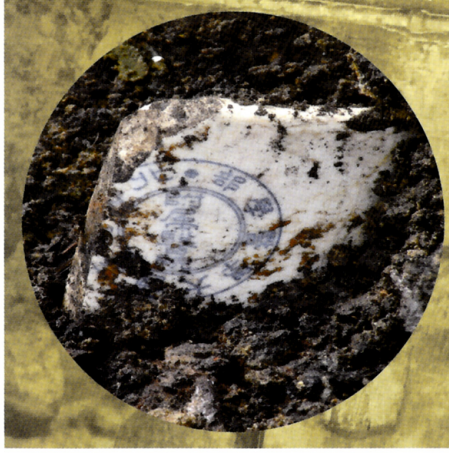
埋蔵文化財調査室ニュースレター

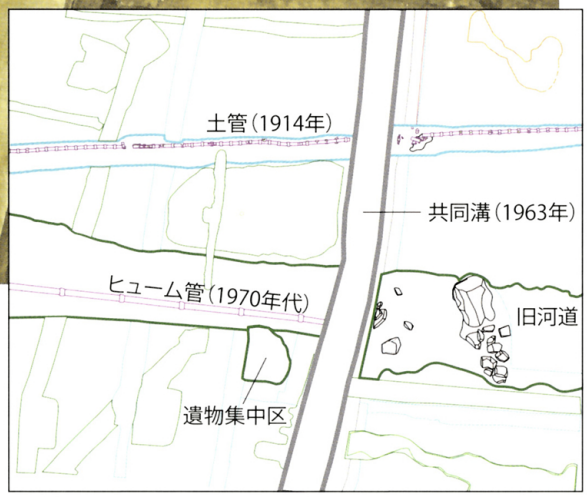
特集　「北大」を発掘する

北大キャンパスには、現地表下１～２mほどの深さに擦文文化、２～３mほどの深さに続縄文文化の遺跡が存在します。これまではこのことを「北大の地下には２つの地底世界がある」と紹介してきました。最近の発掘調査では、縄文文化の中期（４千数百前）にさかのぼる遺跡が、さらにその下層に存在することもわかってきました。また、地点によっては擦文文化の上層にアイヌ文化期の遺跡も発見されてきました。

本埋蔵文化財調査室ではこれらの遺跡を保護・研究して文化財として後世に伝えるために、開発工事に先立って試掘や発掘などの調査を行っています。その際に、遺跡の存在する深さに到達するまでに、実は「もう１つの地底世界」に遭遇することがあります。この地で「北大」が始動する明治期以降の建造物の基礎や土地造成などの諸活動の痕跡です。その内容は図面や文字記録に残されている場合もありますが、当時にあっては当たり前すぎたためか記録に残されなかった事柄もあり、その新たな発見に驚かされることがあります。

今回は、この小さな驚きを「『北大』を発掘する！」というテーマでお届けします。

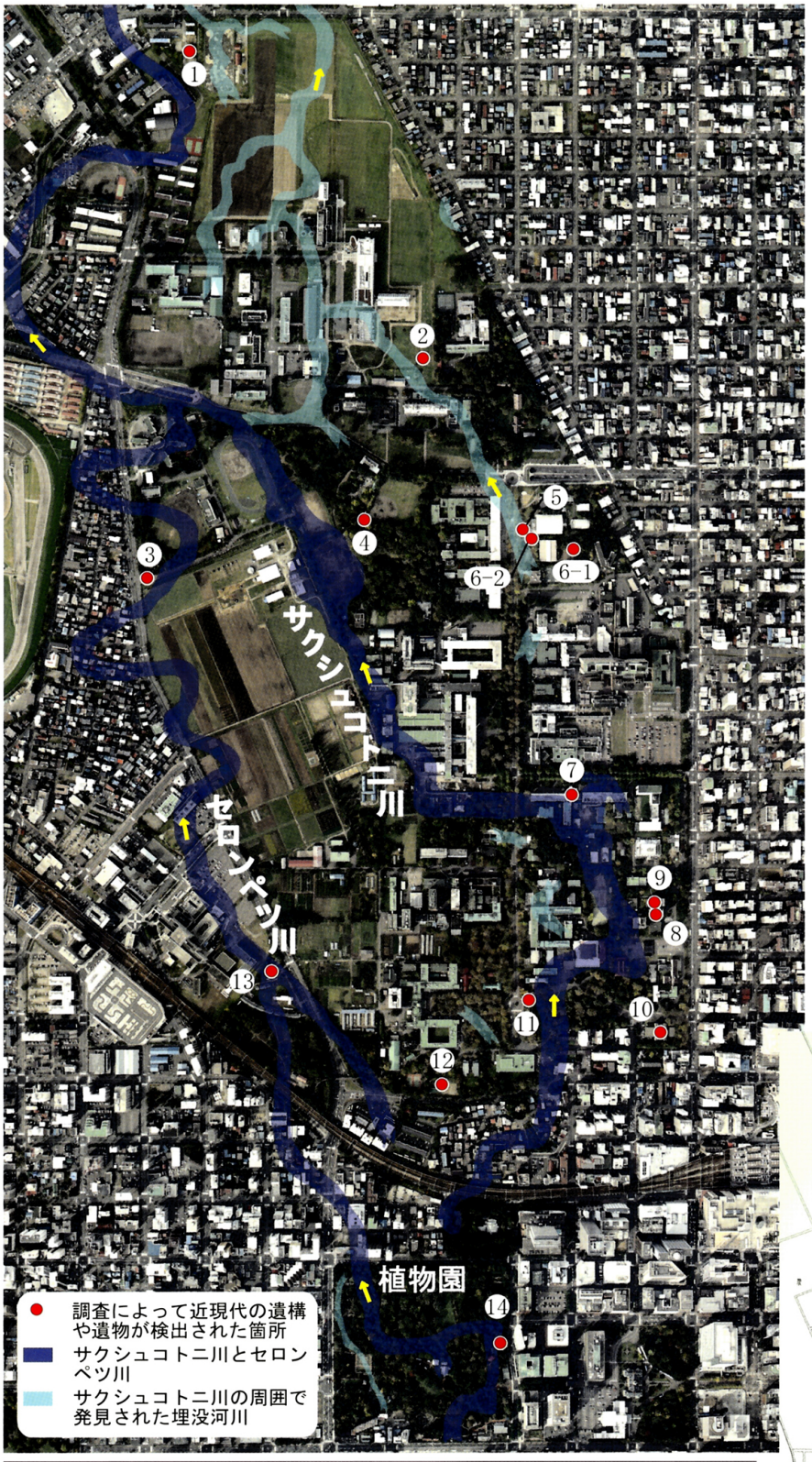


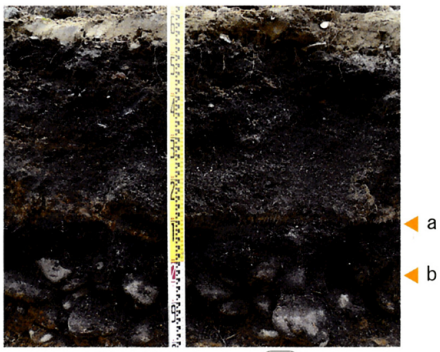


▲K39 遺跡通年型競技施設地点（6-2，丸数字は2頁航空写真参照）で発掘された近現代の遺構と遺物

続縄文の調査を進めていく途中で、近現代の遺構、遺物が多量に発見された。中央の共同溝によって一部破壊されているが、1914年に建設された運動場の暗渠（土管）や、同じ頃の河道の跡が発掘された。河道およびその周辺からは、大量の近現代の遺物がみつかった（遺物集中区）。北大病院に関連する遺物が多量に得られたことが特筆される（カラー写真は北大医学部附属医院の「衛生陶器」）。

主な近現代の遺構・遺物が確認された地点

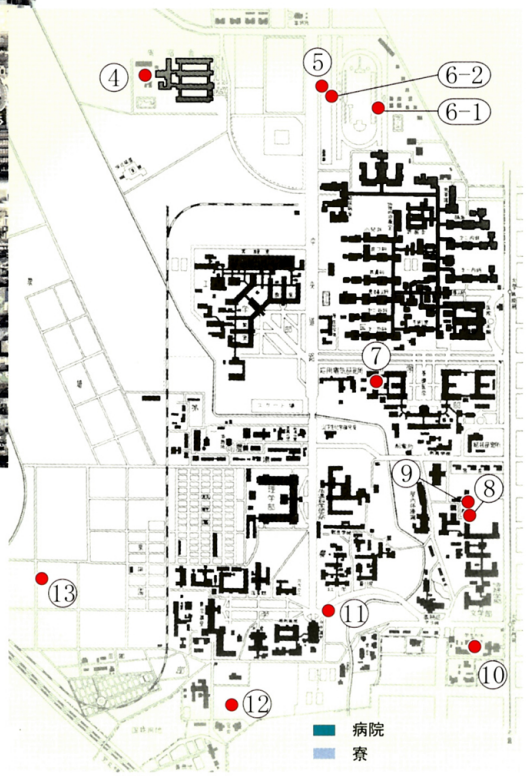




▲通年型競技施設地点（6-1）
建物の基礎に火山灰(a)や礫(b)が入れられた。

▲桑園国際交流会館地点（⑬）
斜めのすじ状の痕跡は、1970年代の開墾の跡。

▲植物園収蔵庫地点（⑭）
宮部金吾記念館(1942年)の基礎(礎石)が2009年の調査で発掘された。



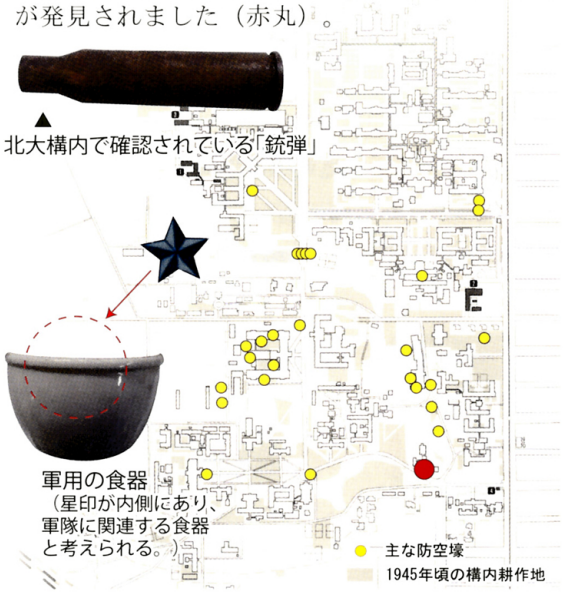
構内平面図　1952年（昭和27）

番号	地点名	時期	備考
1	K435遺跡・南新川国際交流会館2号館地点	昭和40-50年代	2009年度発掘
2	K39遺跡・北キャンパス道路地点南地区	昭和40年代以降	2009年度発掘
3	K39遺跡・西門地点	戦前	『北大構内の遺跡12』掲載
4	K39遺跡・更衣室地点	昭和30-40年代	2008年度発掘
5	K39遺跡・環境整備（広場等）地点	昭和？	『北大構内の遺跡10』掲載
6-1	K39遺跡・通年型競技施設地点（試掘）	戦前	2008年度試掘
6-2	K39遺跡・通年型競技施設地点	昭和30-40年代	2009年度発掘
7	K39遺跡・薬学部電気配線地点	昭和40年代以降	2008年度発掘
8	K39遺跡・地球環境科学研究科研究棟第1地点	戦前	『北大構内の遺跡11』掲載
9	K39遺跡・地球環境科学研究科研究棟第2地点	戦前？	『北大構内の遺跡12』掲載
10	K39遺跡・学術交流会館地点	昭和	『北大構内の遺跡５』掲載
11	K39遺跡・クラーク像前地点	大正以前	1995年度立会
12	K39遺跡・保育園新営地点	昭和30年代以降	2009年度試掘
13	K39遺跡・桑園国際交流会館地点	昭和48-50年頃	『北大構内の遺跡11』掲載
14	C44遺跡・植物園収蔵庫地点	昭和	2009年度発掘

戦争の考古学

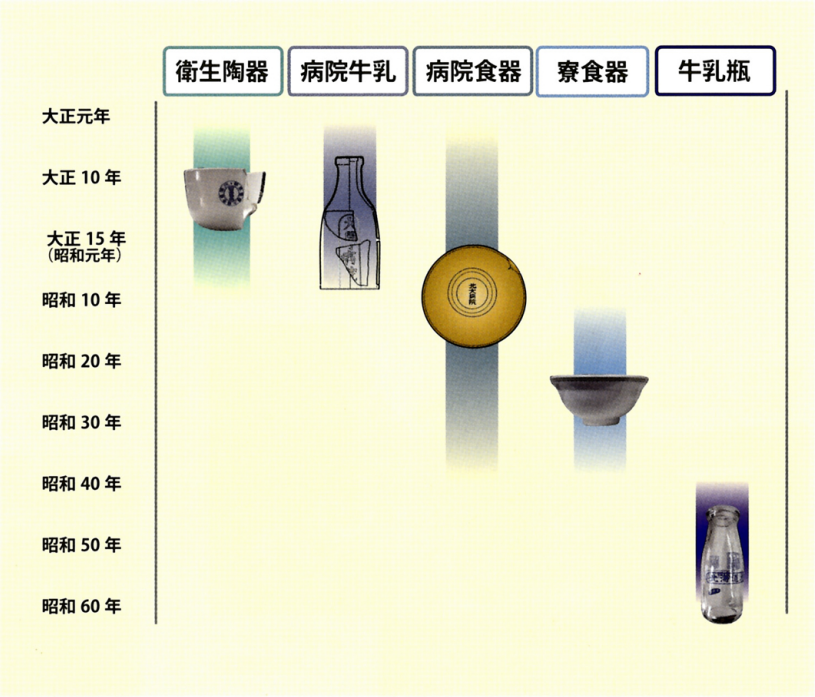
現代の考古学研究は人類史を研究することを目的としています。人類はいつから、そしてなぜ戦争をするのか。また、記録に残されなかった戦争の実態はどうだったのか。これらの問いに取り組む分野が「戦争考古学」で、最近の戦跡も「戦争遺跡」として取り扱う場合があります。

アジア・太平洋戦争中、北大構内には畑が作られ、多くの防空壕も掘られたことを図面から知ることができます。また、学術交流会館地点（⑩）の発掘調査（1985年）の際には、銃弾や「統制食器」などがまとめて廃棄されたゴミ穴が発見されました（赤丸）。



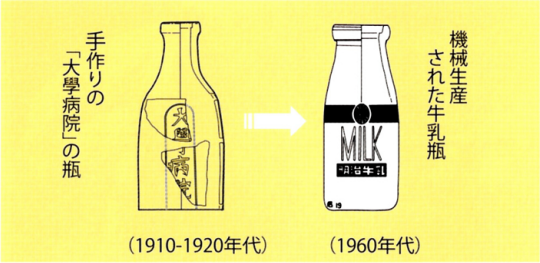
元祖「北大グッズ」

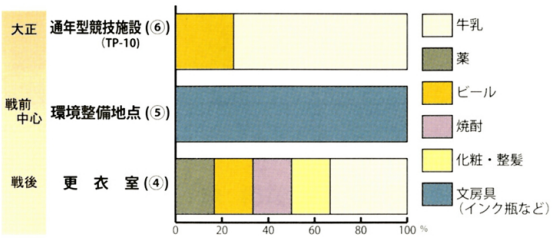
北大構内にある「北大」と印されたものは、マンホールの蓋や生協売店の店頭に並ぶ北大グッズだけではありません。発掘された「北大」を示すものには、病院食器や衛生陶器、国民食器、ガラス瓶などがあります。これらは大量生産された工業製品ですが、製造工場や販売元を表示した印が入っている場合もあり、当時の流通について新たな知見が得られるかもしれません。元祖「北大グッズ」とよべるこれらの製品の大まかな年代を推定してみました。



ガラス瓶の考古学

縄文文化の研究者が縄文土器を分析するように、近現代考古学ではガラス瓶やレンガを分析します。形、機能・用途、製作方法、年代、出土状況などから、製作・使用・廃棄された当時の状況が徐々に明らかになってきました。



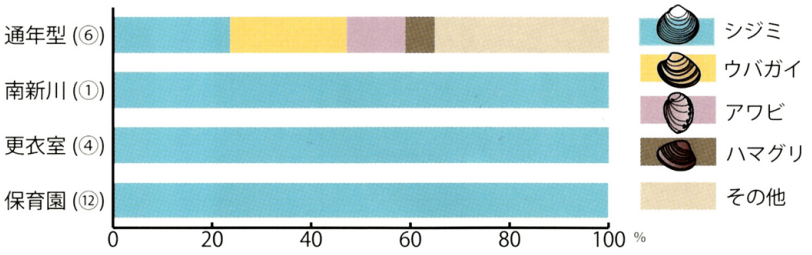


▲　各遺跡のガラス組成表

時代が新しくなるにつれて、機械生産されるものが増加し、それに伴いガラス瓶の種類も多様なものとなる。

北大構内から発見された近現代の動物たち

北大には、動物のお医者さんで知られるように、キャンパス内に多くの動物がいます。近現代では、どんな様子だったのでしょうか。北大構内の発掘調査に関連して、近現代のウシ・ウマ・ネコ科などの動物の骨、ヤマトシジミ・ウバガイ（ホッキガイ）・アワビ・ハマグリ・ホタテなどの貝殻がみつかっています。魚類は、まだ見つかっていません。



▲各遺跡の貝類組成表

○ 貝類は比較的多くの場所で見つかっているので、一定の傾向が見えてきた。南新川地点（①）、更衣室地点（④）、保育園新営地点（⑫）がほぼヤマトシジミのみで構成されるのに対し、通年型施設地点（⑥）では多様な貝類が確認されている。更衣室地点や南新川地点が、大学寮の付近であること、通年型競技施設地点が病院に関連するものが廃棄された場所であることが関連しているのかもしれない。

○ 通常、病院などでは「汁物」として、よく献立にシジミがよく出されたことがわかっている。通年型競技施設地点では、シジミ以外の貝類も多く出土し、特筆される。その中にはハマグリも存在するが、現在でも北海道ではハマグリはとれない。冷蔵庫などがあまりない戦前の環境でハマグリがどのように流通していたのか、興味深い問題である。

用語解説

▲
統制食器（④より出土）

昭和10年頃から終戦くらいまで、陶磁器などの生産も規制され、ほぼ似た形・デザインの食器になりました。特に、軍隊、公共施設では徹底されました。北大構内も、例外ではなく病院や寮で利用された「器」は統一されています。

こうした食器のことを統制食器（国民食器）と呼んでいます。また、病院で使用される陶磁器類は、特殊なものが多く構内でも衛生陶器（痰壺など）が多く見つかっています。

現代と考古学

考古学はどのくらいの古さの「過去」を取り扱うのか。これはなかなか難しい問いです。考古学の研究の進展とともにその定義は変わってきています。現代の多くの考古学者はその目的を人類史の探求と考えているので、「現在にいたるまで」と答えると思います。しかし、その資料となる物質文化のすべてを文化財として保護・研究の対象とするのかと問われれば、そうだとは即答できません。遺跡を「埋蔵文化財包蔵地」として取り扱う自治体ごとの判断と対応によって、その線引きには違いがあります。例えば、東京都では江戸期のものは埋蔵文化財包蔵地として扱われるのが普通になってきましたが、近年では新橋停車場跡が「汐留遺跡」として発掘調査されて話題をよびました。

埋蔵文化財調査室では、続縄文文化と擦文文化の遺跡を中心として、最近の調査でその存在がはっきりとしてきた縄文文化やアイヌ文化の遺跡についても調査・研究・保護の取り組みをしています。そして、その調査の際に出会うことがある「地中に残された北大」についても、重要な資料やデータとして調査・研究しています。

トレイルウォークの実施

▼ウォークに先だっての案内

▲サテライトでの解説

平成21年７月４日および10月31日に、トレイルウォークを行い、数多くの参加者がありました。既設のサテライトに加えて、発掘調査中の遺跡（写真は附属図書館本館地点）も踏査しました。

遺跡調査見学会の実施

平成21年５月22日に北キャンパス周辺道路地点、11月12日に植物園収蔵庫地点の遺跡調査見学会を行い、数多くの参加者がありました。

▲北キャンパス道路地点
続縄文文化の炉や河道がみつかった。

擦文文化の竪穴住居址
▼植物園収蔵庫地点

お知らせ

第３回北海道大学埋蔵文化財調査室調査成果報告会を行います。

日　時　：　平成22年２月14日（土）午後１時～３時30分
場　所　：　学術交流会館第１会議室
内　容　：　平成21年度に調査した遺跡の報告ほか
参加費　：　無料
参加方法：　当日参加も可能ですが、資料準備の都合があるため、できる限り平成22年２月６日までに電話・FAX・葉書のいずれかで奥付にある調査室の連絡先までご連絡下さい

編集後記

今回は北大構内でみつかった近現代の遺構・遺物を紹介しました。記録に残されていない北大キャンパスの一面を覗けたのではないでしょうか。
（遠部）

北大の５つの地底世界、その上に立って、私達は大学生活を送っています。そこはまた人類史の最前線でもあります。
（小杉）

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター　第７号
平成22（2010）年1月25日発行

発行　：北海道大学埋蔵文化財調査室
〒060-0811　札幌市北区北11条西７丁目
電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：jun-ta@let.hokudai.ac.jp
URL　：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~r16749/maibun.html